

第二回全國々公立幼稚園々長會

福 島 總 會

(一) 展 望

八月四・五日太陽も狂おしいまでに威力を發揮している土用の季節であるが、全國から馳せ参じた園長さん達にとつてはものゝ数ではない。教育熱の方がはるかに熱を圧倒しているからである。八月六・七日は仙台市に全國保育大会があるため、これにかけて出席された方々が大部分であつたろう。

会場地—福島市は東北の関門であり、なりは小さいが幼児教育には熱があるという定評を受けている。更にまた温泉飯坂を郊外にもち、果物の産地、人情の里として知られている。こゝに集つた園長さんは百七十名、次に内訳を披露すれば

青森 二 岩手 一 福島 八 新潟 一
栃木 一 千葉 一 群馬 二 東京 二七
長野 一 静岡 二 愛知 七 岐阜 四
滋賀 四 大阪 五一 京都 二三 兵庫 一五
奈良 三 和歌山 一 徳島 八 岡山 一

(二) 理 事 會

広島 三 山口 二 香川 五 大分 二
長崎 二 熊本 二

東北の名湯飯坂は福島駅から電車で二十分、摺上川の清流に沿つた美しい町である。こゝの若喜屋は八月四日午後全會員の姿を吞んでしまつた。一風呂浴びるともう岡田会長始め常任幹事の園長十五名は、新館の二階にほゝ笑みを交して会全体の運営についての相談である。いわゆる遊山気分は毛頭ない真剣な物腰に打たれる。

続いで大広間に約五十名程集合して理事會が開かれたのは、漸く川風も涼しくなつた午後五時半。

岡田会長の挨拶は、政府への陳情請願によつて幼稚園費を計上される運びになつた喜びを伝え、本会の會員も現在すでに五百名に達した成長振りを祝福し、本年度の目標は會員のものを育て充実させることを強調し

た力強いものであつた。終つて地元福島市の桑原会長の挨拶、続いて会務の報告が行われた。次は本会規定による役員選挙である。これは正にこの理事會の山とも言ふべき重大な一コマであつた。結局、東京の金田氏の動議により現会長、副会長の輝かしい功績にこたえ、会創立後間もないことも理由として全員拍手のうちに万場一致再選と決定した。岡田会長、小林河原副会長から固い辭意の表明があつたが容れられなかつた。

議事で主なるものは

1 プロツクの分け方を、全保連や小中学校長會と同様に変更する。

2 會則を変更して会費を三百円に増額するよう總會に提議する。

3 總會の議長は地元から出したいこと等、總會運営の方法について協議が行われた心づくしの地元招待會は、佐藤福島市長の隠し芸に始まり、夏の宵の快適な涼風をあびて更くるまで続けられた。

(三) 總 會

八月五日午前八時、バスに乗つた會員が早くも会場の福大附属中学校に姿を見せる。校舎は古めかしいが、どことなく床しい香りがある。狭い講堂はどつと寄せた園長さん方であちまち一杯になつた。受付をすませるともう開會の時刻である。

1 開會式

岡田会長の挨拶は例のごとく慎重な中に火

のような熱誠をこめて感銘を与える。

来賓の祝辭に移れば、福島県教育長小野先生から親しみ深い態度で、性格教育上から見た幼児教育の重要性が話され、いわゆる三つ児の魂百までもの真義を強調された。丁度このとき文部省の初等教育課長大島先生と玉越先生が、朝着の下り列車でおいでになり会場に見えられた。さつそくながら進行係からの紹介があつて、文部大臣の代理として大島議長が壇上に立たれる。迫らない温厚な腰の腰で静かに話される。幼稚園教育の使命が大きく見直されてきた現在、日夜たゆまぬ努力をささげている園長の労をねぎらい、新しい建設時代であるからお互に融和を深めて努力してほしいと結ばれる。続いて地元福島市長から会場地を引きうけた光栄と歓迎の心が述べられた。

2 議事

(1)議長は理事会の協議通り福島第四園長桑原氏が拍手のうちに承認される。桑原議長登壇、真摯な挨拶がのべられ、さつそく議事に入る。

(2)会務報告—会計は東崎理事から、庶務は福田理事からそれぞれ報告があり、劣に感謝する拍手を浴びて承認される。こゝまでが本会の前年度分の区切りである。かくて新しい発足が次の瞬間から始められる。

(3)新会長の挨拶—岡田、小林、河原の各正副会長が再選を快く受けられての力強い挨拶である。

(4)総会までの経過について—福島第二園長峰谷氏から、本会幹部の熱意、各団体の後援のおかげを強調する報告があつた。

(5)会則審議—愛知から第十一條の会費年額百円では低額にすぎることから三百円と改正し、尙不足の際は各地区の工夫によつて補うようにしたいと提議。賛成の声があつた。広島からは、会員の増加をはかることこそ緊要ではないかとの意見が出され、大分の賛同があつた。こゝで本会経費の苦しい状況について本部役員から発表があり、まだ未入会員が約三百あることが明らかにされた。裁決は、会員増加の運動申合せを附帯して三百円と決定。協議題の審議に移る。

(6)幼稚園教育と小学校教育の連絡を如何にするべきか—四園から提案説明。

福島から、兼任園長の体験として小学校児童のうち九十パーセントが園児である好条件の発表。東京は、小学校との連絡会を強調し、新潟は幼小中一貫した研究会の実施を発表。奈良はカリキュラムの一貫性を論じた。こゝで滋賀から幼小と小間の教員資格の共通について文部省陳情のことが叫ばれ、給与も県費としてほしいと論じる県があり、長野大阪等から意見の発表があり本部でとりあげ各方面に請願陳情することにまとまつた。

(7)平衡交付金法教育費の中に幼稚園と明記された—近畿から、わづか徳島だけが三十一%の県費負担となつている実状等の説明。長野からの動議で文部省側の意向をきくこと

になり大島課長から、要望通りになるよう前々から研究中であるとの答弁を得た。さらに小学校教員と比較して待遇が低い実状を訴える声が出、約十三県から挙手があり、もつと詳細に実状を調査することとなつた。岡田会長からこの種の調査協力に誠意を示してほしい旨の希望のべられ結局陳情運動展開を決議した。

(8)各都道府県国立大学に附属幼稚園を設置したい—関東提案。

東京及川氏から、現在持たない県が十四あるが、地元園長は各大学に運動されたいとの発表があり、政府に対して要望することに決定された。

(9)一般社会人に幼稚園教育の本質を認識されるための最も適切な方策は如何—近畿提案。徳島が起ち、保育所と幼稚園の教育の区別を市長や市議等自身が明瞭にすべきであり、PTAに対する啓発が必要であると論ずる。大阪からは、会場に飾られた展示物を説明し、市の理解が高まりつゝあることの発表があつた。続いて福島は、文部省と厚生省の間で幼児教育について正しい研究をしてほしいと論じ、滋賀は、PTAを動かすべきことを提議した。

(10)日本教育連盟に加盟の件—本部提案として小林副会長から「本会も他の小中高校長会と同様に加盟を呼びかけられてゐる。しかし、もう少し研究を深めるまで保留としておきたいので、その間に会員諸氏の考究を望む」と

説明がある。これに対して諸方から加盟賛成の声が出たが、本部の態度通り決定。

(11)緊急動議——東京から「幼稚園教員養成所の履修期間を一ヶ年ではなく二ヶ年にしてほしい」と提案する。これに対し岡山、香川等から、その地区の状況によるべしと発言。その他愛知からは、設備環境の貧弱、教員待遇の劣悪などの面から幼稚園教育に対する危機を絶叫。当局への有効な運動を申合せ、かくて約三時間近い協議の幕を休憩なしの強行のうち閉じたのであつた。

3 閉会式

会長から「会員の協力を謝し、当番福島島の労をねぎらい、おかげで各々楽しい思い出を持つて帰る幸福を」力強く挨拶して閉会を宣した。

(四) 印象

1 幼児生活展覧會

本会議場とそこに通ずる廊下の壁面に飾られた図表写真絵画等数百点がそれぞれである。実にきれいに品よくでき上つた視覚作品で、文化的な香りを発散してゐる。これは大阪市立幼稚園研究協議会が、わざわざ持参したもので、幼児期教育の重要性を社会一般に認識させ、幼児教育の普及を促進し、保育義務の機運を促進したための力作である。その内容をのぞいてみると、1幼稚園はなぜ必要か、2幼稚園とはどんなところか、3幼児期の体、しつけ、玩具、言語、音楽と

リズム、幼児期の科学教育、幼稚園の変遷など十項目に分れて編纂されている。総会が終つてからまで盛んにノートしている會員が多数あつたが、本當に堂々たる研究物である。もつと多数の社会人の目に触れさせたかつた。福島市では、これを九月末まで借用して一般に公開することになつた。

これが大阪の大丸百貨店に初公開されたのは、今年の二月から三月にかけての二週間であつた由。市民三万三千人の観覧をかち得、多大の感銘を与えてゐる。岡田会長は「大阪市立三十四園、二百に近い実務者の悲願の結晶です」と語つて居られた。この努力には全く頭が下る思いがする。

2 記念撮影

約二百名の参加者が、古色床しい玄関前の庭に参集して、バルコニーから見下したカメラのレンズを仰いでゐる。さなきだに暑い日照りにさらされて、体と体を接触させてちつと立つている——不平もなく。

パチリとシャッターが切られ写真やさんの頭がピヨコンとお辞儀をする。皆にくくとして散つてゆく。さわやかな夏の風が吹き通る——この風景がなんとも云えぬなごやかさを描いていた。

3 懇談會パーティー

これはまた新鮮な窓の高い明るい会場である。福島市立幼稚園長会の心からなる歓迎の宴が設けられている。型通りの儀礼が交付されて後は、全く自由な肩のこりをもみほぐす

笑いの巷が現出される。各地区からは代表の芸術が次々と披露されて盡くるところを知らない。全国演芸コンクールの観があつた。「万歳々々」幼児のよう純真な叫びと、無邪気な拍手があがるまで、完全に時間を超越した園長さん達であつた。

4 感有り

幼児教育の実務者はどの方も心おだやかであり、幼な子のような美しい気持を持ち、子供への愛情を傾けて真剣に世話をし踊り歌い馳けまわつてゐる。それは教育界のバラゲイスであり汚れない無菌の世界である——唯これだけでよいのであろうか。世の批判者は幼稚園教育の後進性を歎いてゐる。経営者の目には、設備に、教職員の待遇に、社会人の無理解等々に矛盾や空虚が写つてくる。

こゝに無風帯では済まされぬ深刻な悩みが必要になつてくるのではあるまいか。強力な組織と実践と評価と、これを貫く筋の通つた理論性と、社会人の納得が要求されはしないだろうか。

全国を一つにした園長会は、かくして生れ今や幼児教育界の先頭に立つて、自ら困難を引き受け、いばらの道を拓きつゝある。

福島総会が、その第二年のたゝかいに幾らかでも貢献するところがあつたとしたら、当番園長たちにとつて望外の満足である。

(福島市 作山記)